

2026年（令和8年）2月28日

2026年 北上・西和賀観光物産展 開催レポート（初日速報）

令和8年（2026年）2月28日、東京・銀座の「いわて銀河プラザ」にて、今年も「北上・西和賀観光物産展」が華やかに開幕しました。本日は雲ひとつない澄み渡った青空に恵まれ、気温も20度まで上がるという、春の訪れを感じさせる絶好のイベント日和となりました。

活気に満ちた「いわて銀河プラザ」

土曜日ということもあり、銀座の街は多くの人で賑わっていましたが、銀河プラザ館内も負けず劣らずの盛況ぶりでした。入り口をくぐると、北上・西和賀が誇る自慢の特産品がずらりと並び、故郷の香りが会場いっぱいに広がっています。

本日の大きな見どころの1つは、「北上ふるさと会民話研究会」の皆様による民話語りです。特設された口演コーナーには、昨年を大きく上回る**40名強**もの観客が集まりました。立ち見が出るほどの盛況ぶりに、銀座の真ん中でこれほどまでに「郷土の言葉」を求める人々がいることに、深い感動を覚えました。

本日のプログラムでは、千田直氏の「二度咲く野菊」から始まり、井藤佐和子氏、南館美達氏と続き、最後を締めくくったのは鈴木昌子氏による「馬鹿婿」



でした。北上弁の独特の温かみと、語り部の方々の情感あふれる表現に、観客は皆じっと聞き入っていました。最後の口演が終わると、会場からは自然と大きな拍手が沸き起こり、ひととき銀座の喧騒を忘れて、みちのくの名産を共有する一体感に包まれました。

交流の輪と、明日への期待

口演の余韻に浸りながら、私も物産ブースにて「純米大吟醸 鬼剣舞」と、漬物「笑美入り 松前漬」を購入しました。その後、民話研究会の皆様や北上市から来られた職員の方々に挨拶し、「明日もまた来ます」と告げて会場を後にしました。



今夜は、買い求めたばかりの郷土の漬物を肴に、地酒の杯を傾けながら、懐かしい故郷の言葉の響きを振り返るつもりです。東京にいながらにして、これほどまでに北上・西和賀を身近に感じられる機会はありません。

明日、3月1日も引き続き開催されます。明日は蘭牧枝氏や小野寺るり子氏らによる新たな演目も予定されており、さらに多くの来場者が予想されます。役員の皆様も、時間が許せば、銀座まで足を運んでみてはいかがでしょうか。そこには、私たちが誇るべき「ふるさとの体温」が確かに息づいています。

(菊池 潤 記)